第５回　御幸公園梅香（うめかおる）事業推進会議

日　時　平成２８年５月２５日（水）
１５：３０～１７：００
場　所　幸区役所４階第３会議室

１　開会

２　議題

（１）梅の整備方針（案）について
（２）梅の維持管理について
（３）「御幸地区の歴史・文化」講演会について
（４）御幸公園梅香事業に関する寄附について
（５）「御幸公園梅香事業推進計画」について

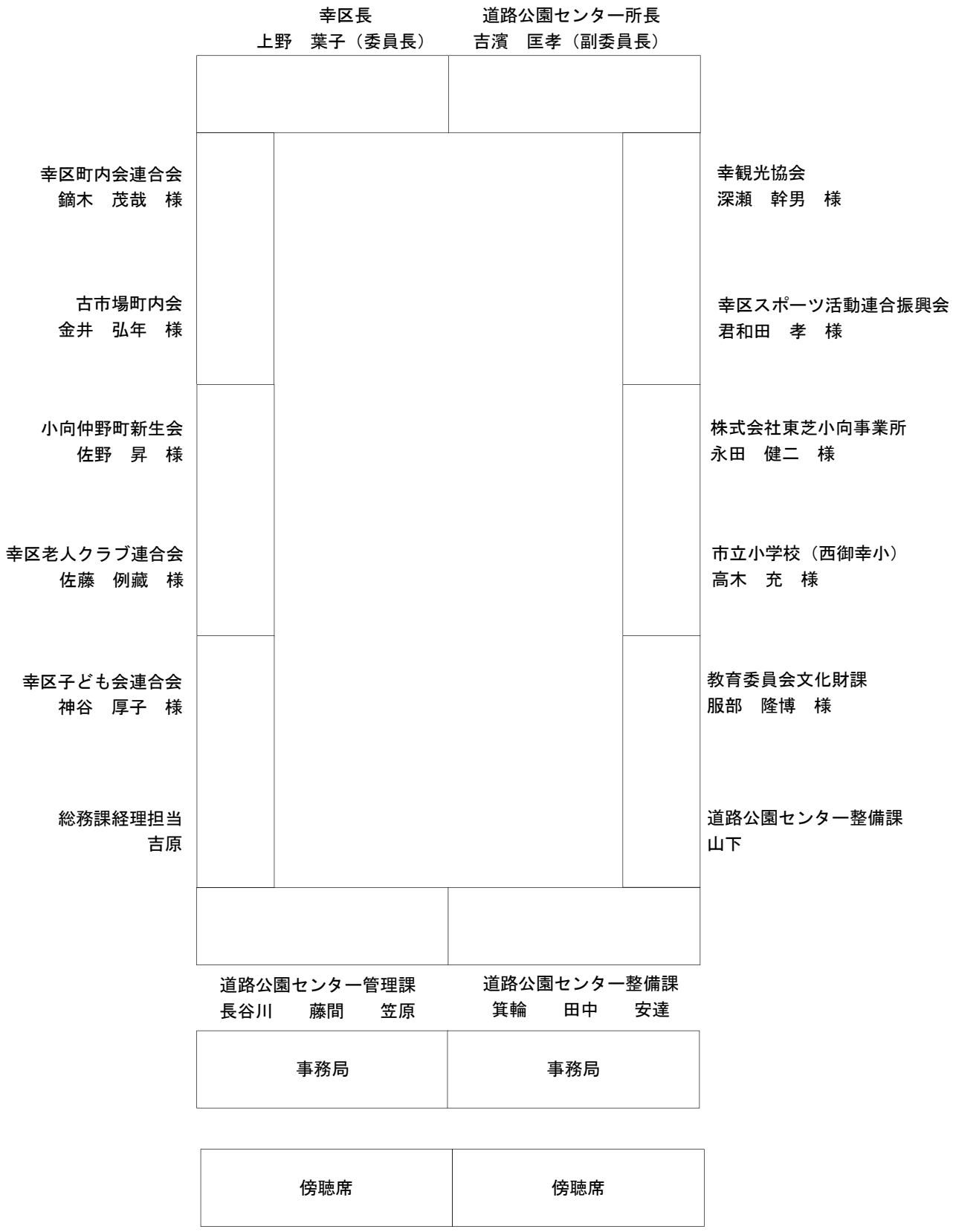
３　その他

４　閉会

資料１　梅の整備方針（案）について
資料２　梅の維持管理について
資料３　「御幸地区の歴史・文化」講演会について
資料４　御幸公園梅香事業に関する寄附について
資料５　「御幸公園梅香事業推進計画」について（案）
参考資料１　御幸公園梅香事業実施要綱
参考資料２　御幸公園梅香事業推進会議設置要綱
参考資料３　「御幸公園梅香事業」推進会議　名簿
参考資料４　平成２８年度御幸公園梅香事業実施計画（案）
参考資料５　計画期間の主な取組（案）H27～H36
参考資料６　御幸公園梅香事業第４回推進会議摘録

第５回「御幸公園梅香（うめかおる）事業」推進会議座席表

会場　幸区役所４階第３会議室



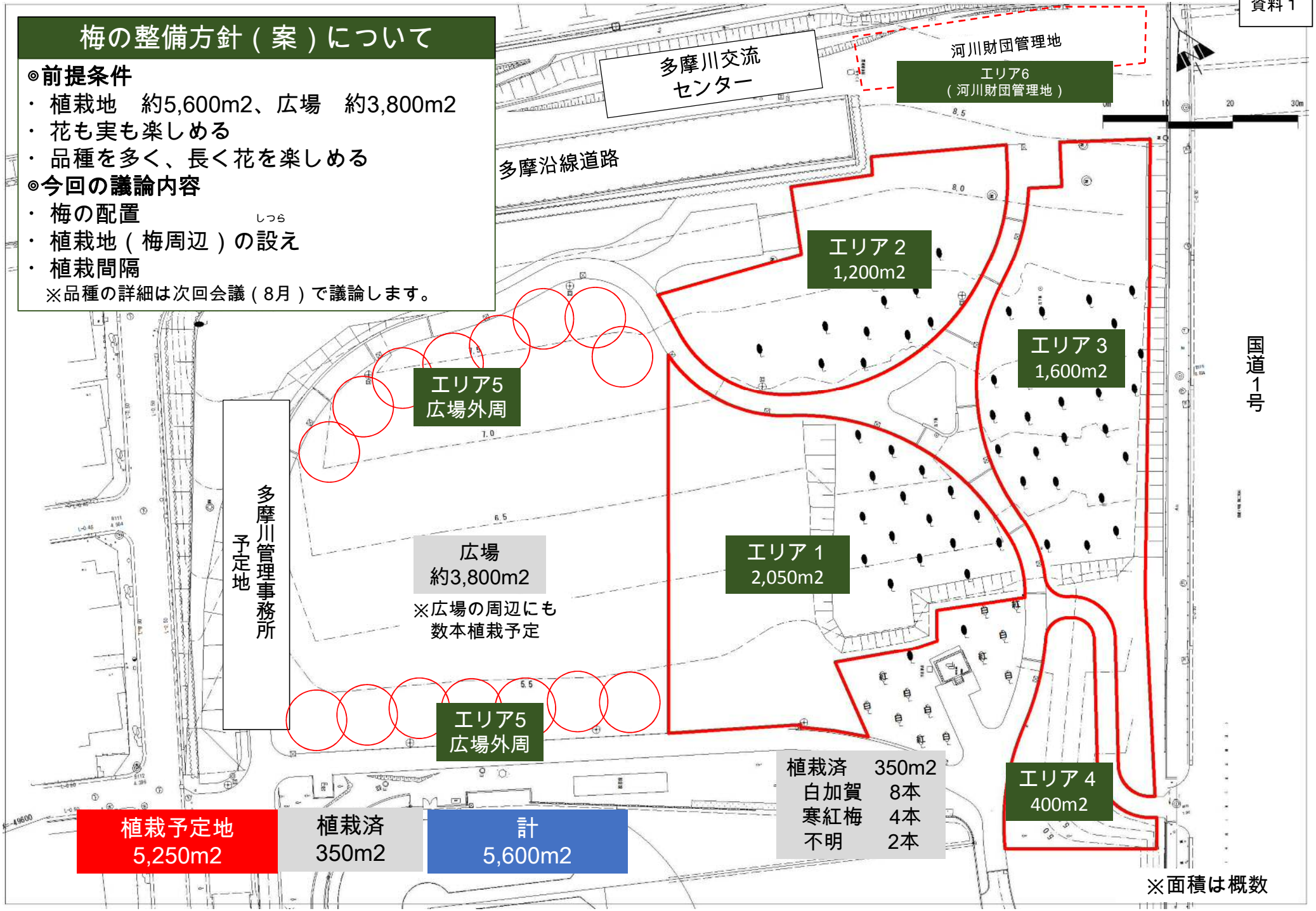
資料１

梅の整備方針（案）について

◎前提条件
- 植栽地　約5,600m2、広場　約3,800m2
- 花も実も楽しめる
- 品種を多く、長く花を楽しめる

◎今回の議論内容
- 梅の配置
- 植栽地（梅周辺）の設え（しつら）
- 植栽間隔

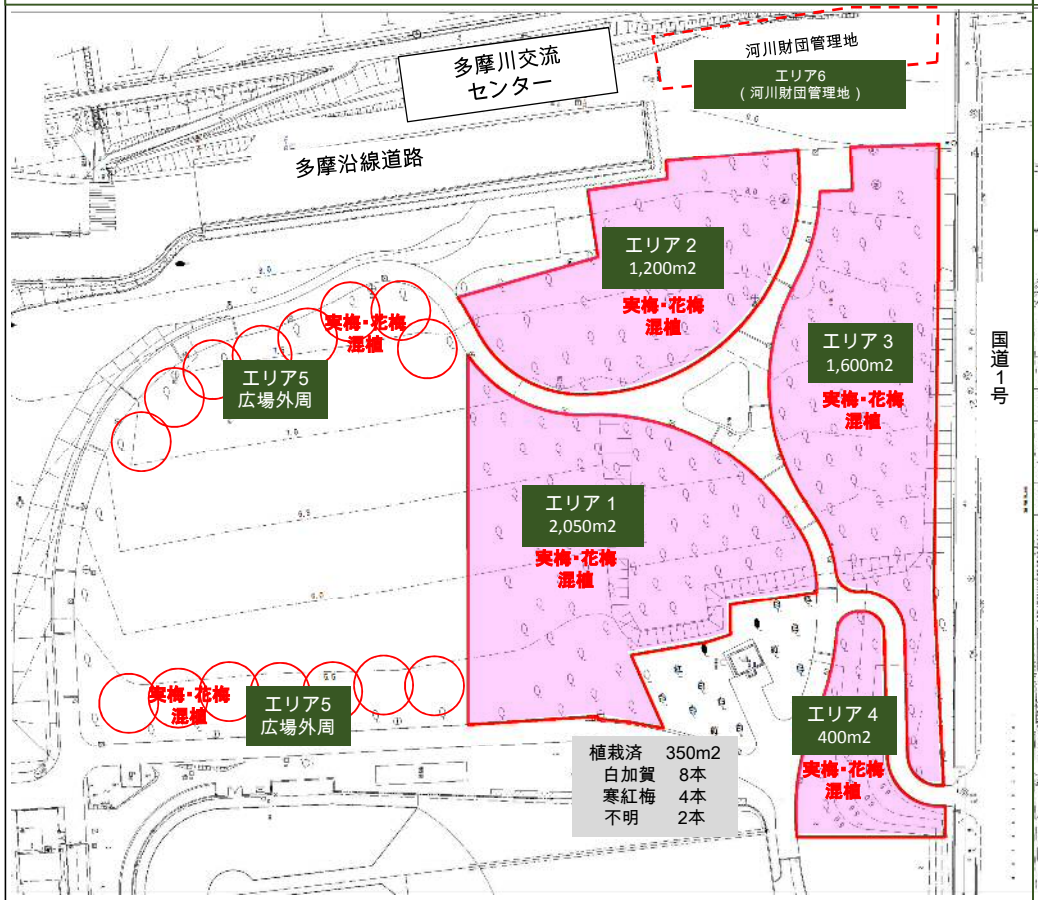
※品種の詳細は次回会議（8月）で議論します。



梅の整備方針　-　梅の配置　-

案１　実梅と花梅を混植する

・梅林に一体感を持たせるため、実梅と花梅をエリアで分けることはせず、どのエリアも均等に品種を配置する。



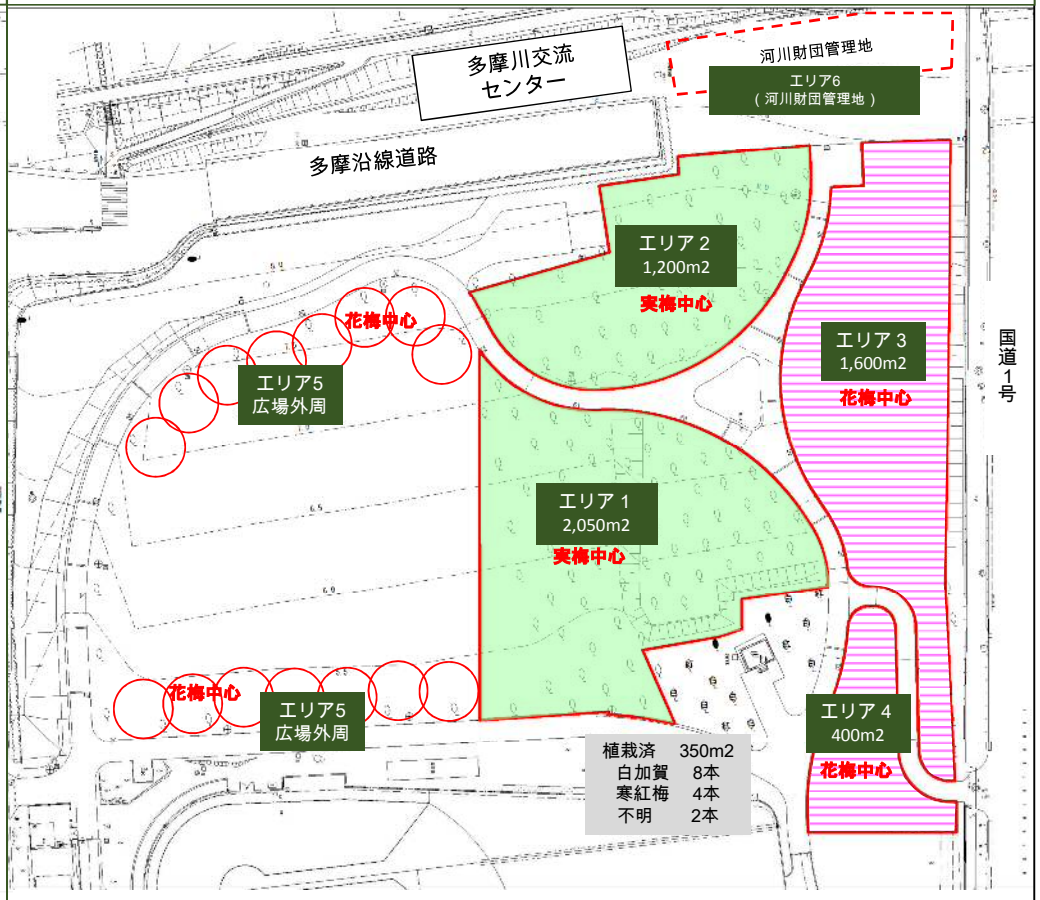
◎品種を自由に選べる

▵かつての小向梅林をイメージしにくい

イメージ（保土ケ谷公園）

案２　実梅と花梅を分ける

・碑周辺から多摩川にかけては、かつての小向梅林をイメージし実梅中心の品種とする。（エリア１、２）
・その他のエリアは花梅を中心とする（エリア３、４、５、６）



◎歴史に配慮した形となる（かつての小向梅林のイメージがしやすい）

▵実梅エリア（エリア１、エリア２）は、花色が白～淡紅となる。

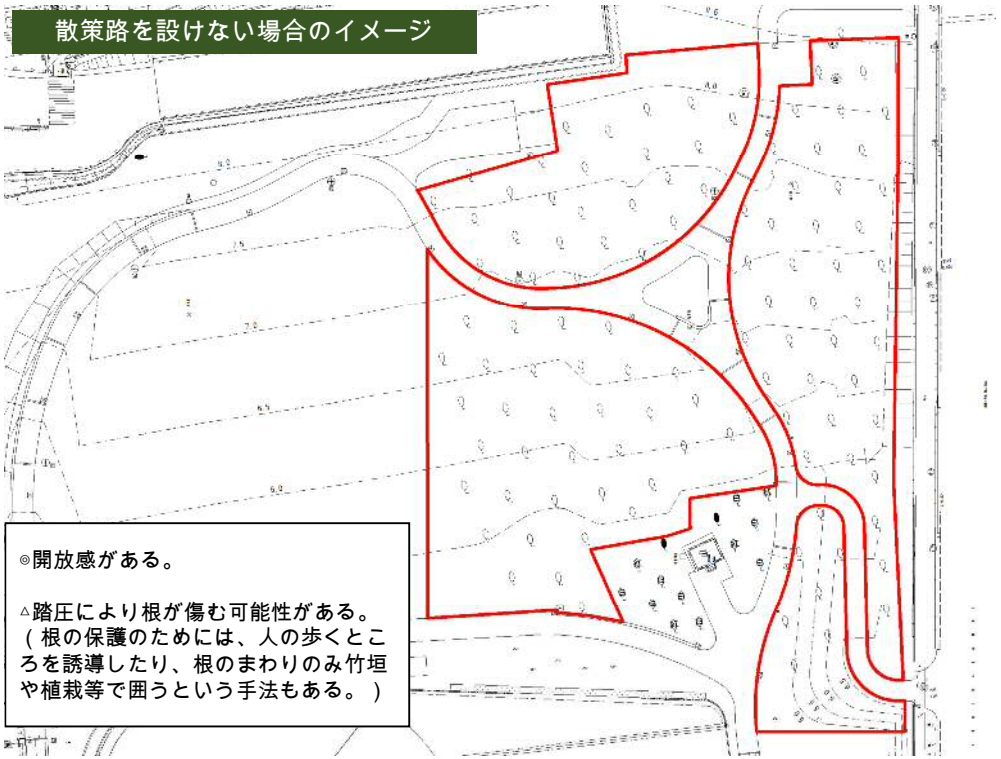
イメージ（大倉山公園）

梅の整備方針　－　植栽地（梅周辺）の設え（しつら）　-

案１　広場を活かす

・柵は設けず、広場と一体的にする。

散策路を設けない場合のイメージ



◎開放感がある。

△踏圧により根が傷む可能性がある。（根の保護のためには、人の歩くところを誘導したり、根のまわりのみ竹垣や植栽等で囲うという手法もある。）

イメージ（小田原フラワーガーデン）

イメージ（小田原フラワーガーデン）

イメージ（偕楽園拡張部）

イメージ（偕楽園拡張部）

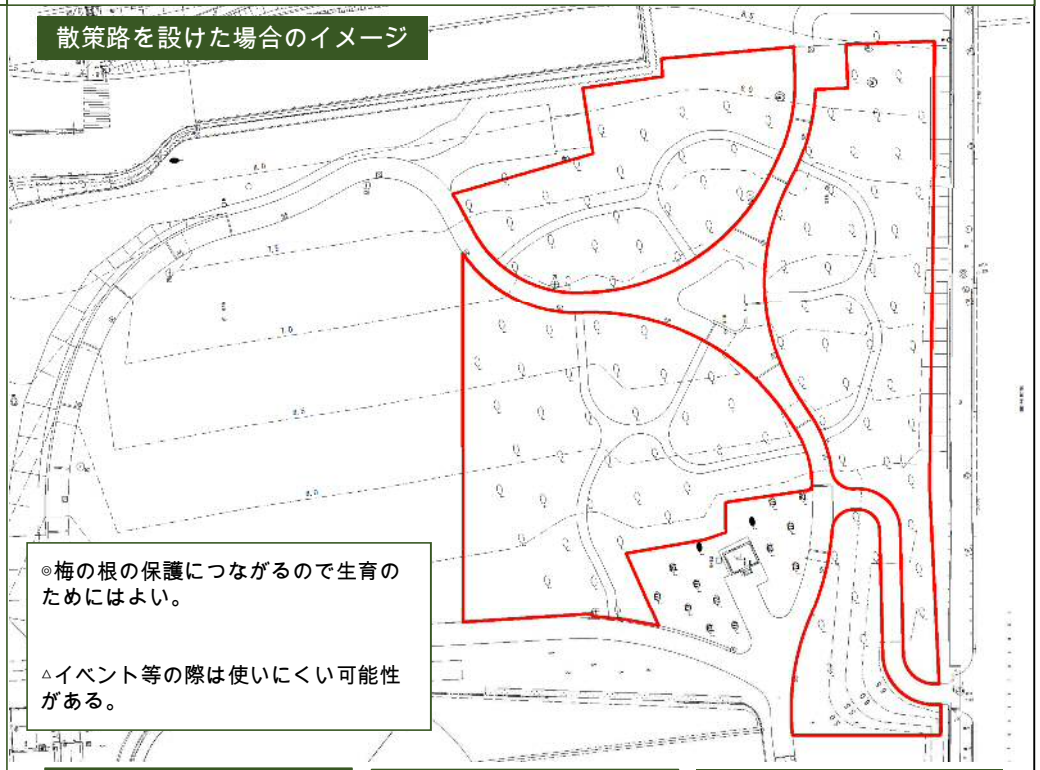
園路（ｳｯﾄﾞﾁｯﾌﾟ）（保土ケ谷公園）

竹垣で囲う（偕楽園）

案２　ロープ柵や生垣等により区切る

・植栽地には人が出入りできないよう、植栽地を区切る

散策路を設けた場合のイメージ



◎梅の根の保護につながるので生育のためにはよい。

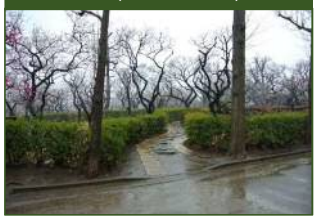
△イベント等の際は使いにくい可能性がある。

ロープ柵（大倉山公園）

竹垣（三溪園）

竹垣（梅屋敷公園）

生垣（羽根木公園）



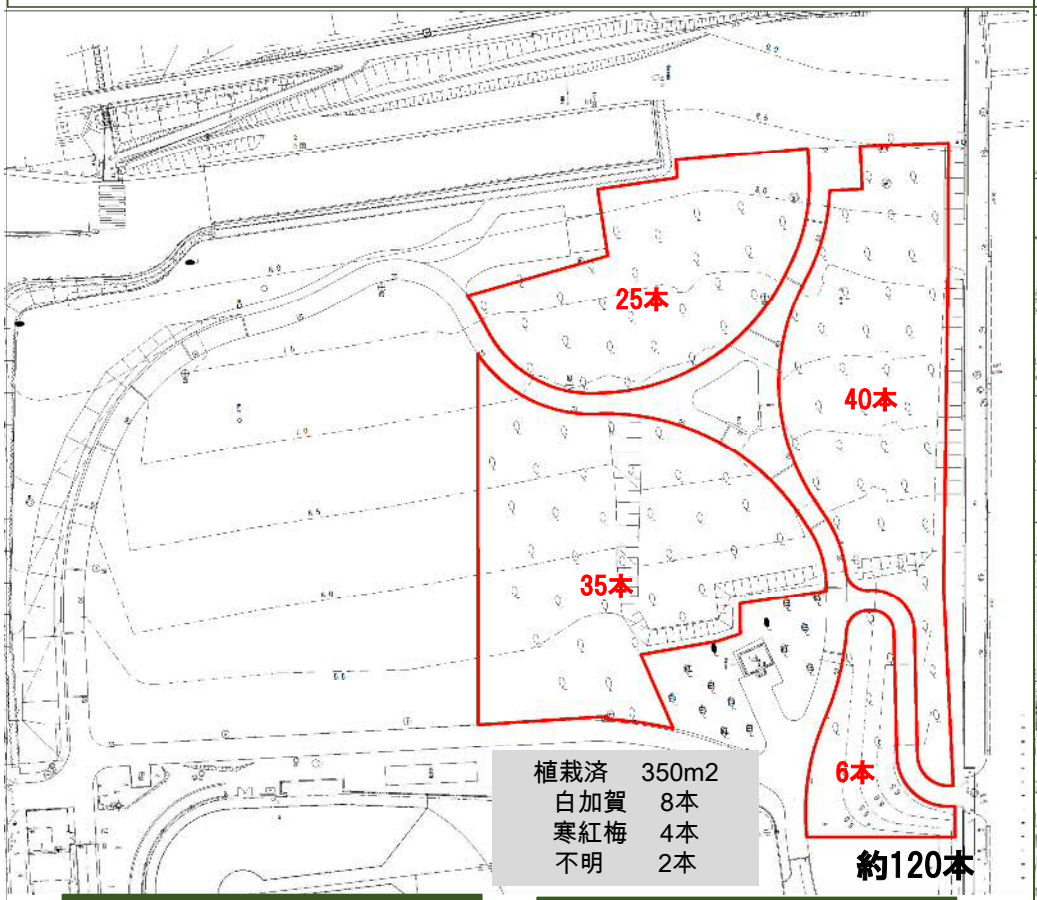
生垣（羽根木公園）

生垣（梅屋敷公園）

梅の整備方針　－　植栽間隔　-

案１　5～8m間隔、約120本

・広場の延長のようなイメージとし、間隔は広め。
・大倉山公園より間隔は広い



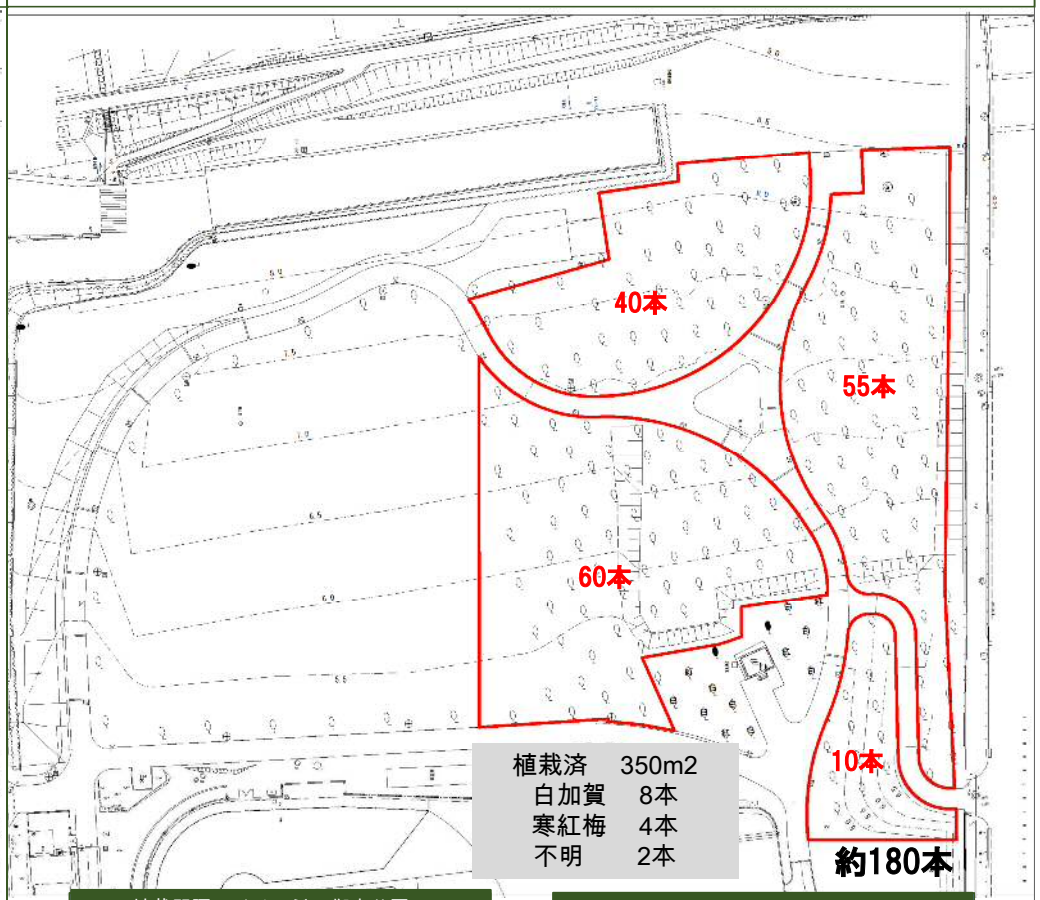
植栽済	350m2
白加賀	8本
寒紅梅	4本
不明	2本

植栽間隔のイメージ（小田原フラワーガーデン）

植栽間隔のイメージ（偕楽園）

案２　4～5m間隔、約180本

・現在の御幸公園とほぼ同程度
・梅畑の場合もほぼこのくらい



植栽済	350m2
白加賀	8本
寒紅梅	4本
不明	2本

植栽間隔のイメージ（御幸公園）

植栽間隔のイメージ（御幸公園）

【参考資料】

梅の分類

○性による分類

・梅は大きくわけて実を楽しむ「実梅（みうめ）※1」と主に花の観賞用である「花梅（はなうめ）※2」に分けられ、花梅はさらに「3系8性※3」に分けられる。
日本には、実梅は100種以上、花梅は400種以上あるといわれている。

※1　「実梅」だからといって、花の鑑賞に堪えないわけではない。
※2　「花梅」の果実は、品質の優れないものが多いが利用できないわけではない。
※1、2　「実梅」と「花梅」両者に明確な区別はない。
※3　分類は人により異なる

○花色

・基本色として、雪白、青白、白、乳白、淡黄、黄色、淡色、桃色、淡紅、紅、紫紅、濃紅などの表現があるが、必要に応じてもっと細かい表現をすることもある。

○花の大きさ

・極小（直径1cm前後）、小（直径1.5cm以下）、中の小（直径1.5cm～2cm）、中（直径2～2.5cm）、中の大（直径2.5～3cm）、大（直径3～4cm）、極大（直径5cm以上）

○花弁の状態、複色の形

・形状には、最もふつうの丸弁のほかに、花の先がキキョウのようにとがるもの、花弁が縮れしわのある状態のもの、花弁が退化したものなどがある。
・花弁の色が一色以外の場合、絞り、半染め、吹きかけ、底紅などの表現がある。

○開花期

・一般には遅咲きか早咲きかに分けられる。野梅性の多くは早咲き。豊後性や杏性は遅咲きが多い。

梅の栽培

○梅の特徴

・中国中南部原産で、弥生時代に中国から渡来したと考えられている。
・開花期の気象条件に結実が左右されやすく、生産が不安定。
・致命的な病害虫はなく、育てやすい。

○自家結実率（自身の花粉で実がなる確率）

・梅は品種により、よく結実する品種となりにくい品種がある。
例：白加賀　0（自身の花粉では実をつけない）
　　南高　　11.5　など
→多くの品種が自家不結実性であるため、受粉樹が必要。開花期が近い3種類程度を植えるとよい。混色割合は30%以上。

実梅の品種例

品種	開花期	熟期	花粉	自家結実性	花色	花弁	受粉樹	用途	備考
白加賀	中	6/上	極少	不和合性	白	単弁	必要	梅酒用	受粉に適する品種は甲州最小、南高、梅郷、杉田等
十郎	極早	6/中～下	無	不和合性	白	単弁	必要	漬梅	受粉に適する品種は竜峡小梅、南高、梅郷、杉田等
南高	やや早	6/下	多	不和合性	白	単弁	必要	漬梅	完全花が多く、受粉が良ければ豊産
梅郷	やや早	6/上	多	不和合性	白	単弁	必要	梅酒（漬梅）	白加賀などの受粉に良い
杉田	中	6/中	多	和合性	白	単弁	不要	漬梅（梅酒）	受粉樹として適する

性による分類

					主な品種
実梅（みうめ）	果実の品質が優れ、結実その他栽培特性から選抜された品種群。花色は白色単弁が多く、淡紅またはピンクより濃いものはない。				白加賀、南高、十郎、梅郷、玉英など
花梅（はなうめ）	野梅系（やばいけい）	原種に近いもので、枝は細く、葉も比較的小さい	野梅性（やばいしょう）	原種に近いもので、枝が細く、ときにはとげ状の小枝を出す。若い枝は緑色で、日焼けすると赤みが出てくる。葉は比較的小さく毛がない	思いのまま、初雁、八重野梅、八重寒紅など
			紅筆性（べにふでしょう）	紅色の蕾の先がとがっているために紅筆と呼ばれる	紅筆、古金襴など
			難波性（なにわしょう）	枝が細く茂り、いくらか矮小気味。挿し木でよく活着するものが多い。葉は丸葉。	難波紅、御所紅など
			青軸性（あおじくしょう）	萼と若い枝が黄緑色。花は青白色。	緑萼、月影など
	緋梅系（ひばいけい）	花は紅色がほとんどだが、花は白でも古枝の髄が赤ければ、この系に分類される	紅梅性（こうばいしょう）	花色が明るい普通の紅梅。若枝の色が緋梅性のものほど濃くならず、緑色がかっている。	紅千鳥、大盃など
			緋梅性（ひばいしょう）	紅梅のうち、花の紅色が濃いものをこのグループに区別。多くは樹勢が弱く、若枝が黒褐色に日焼けする。	鹿児島紅など
	豊後系（ぶんごけい）	アンズとの雑種性が強い。花ウメ、実ウメの両方に当てはめられる	豊後性（ぶんごしょう）	アンズとの雑種性の強いウメ。花はピンクが多い。花ウメ、実ウメの両方にあてはめられる。	楊貴妃、八重揚羽など
			杏性（あんずしょう）	豊後性によく似るが、それより枝が細く葉も小さい。葉面に毛はなく、枝の色は灰褐色。遅咲きが多い。	緋の袴など

白加賀

思いのまま

難波紅

一重緑萼

月影

紅千鳥

鹿児島紅

藤牡丹枝垂（豊後系）

かつての小向梅林の品種

梅樹取調　橘樹郡小向村　（市民ミュージアム所蔵資料より）
梅樹株数　3,704本
内種類

八重ハツブサ梅	250本	ヤツブサ梅	350本
白カガ梅	2,816本	鴬宿梅	3本
ブンゴ梅	20本	紅カガ梅	250本
青カガ梅	15本		

参考文献

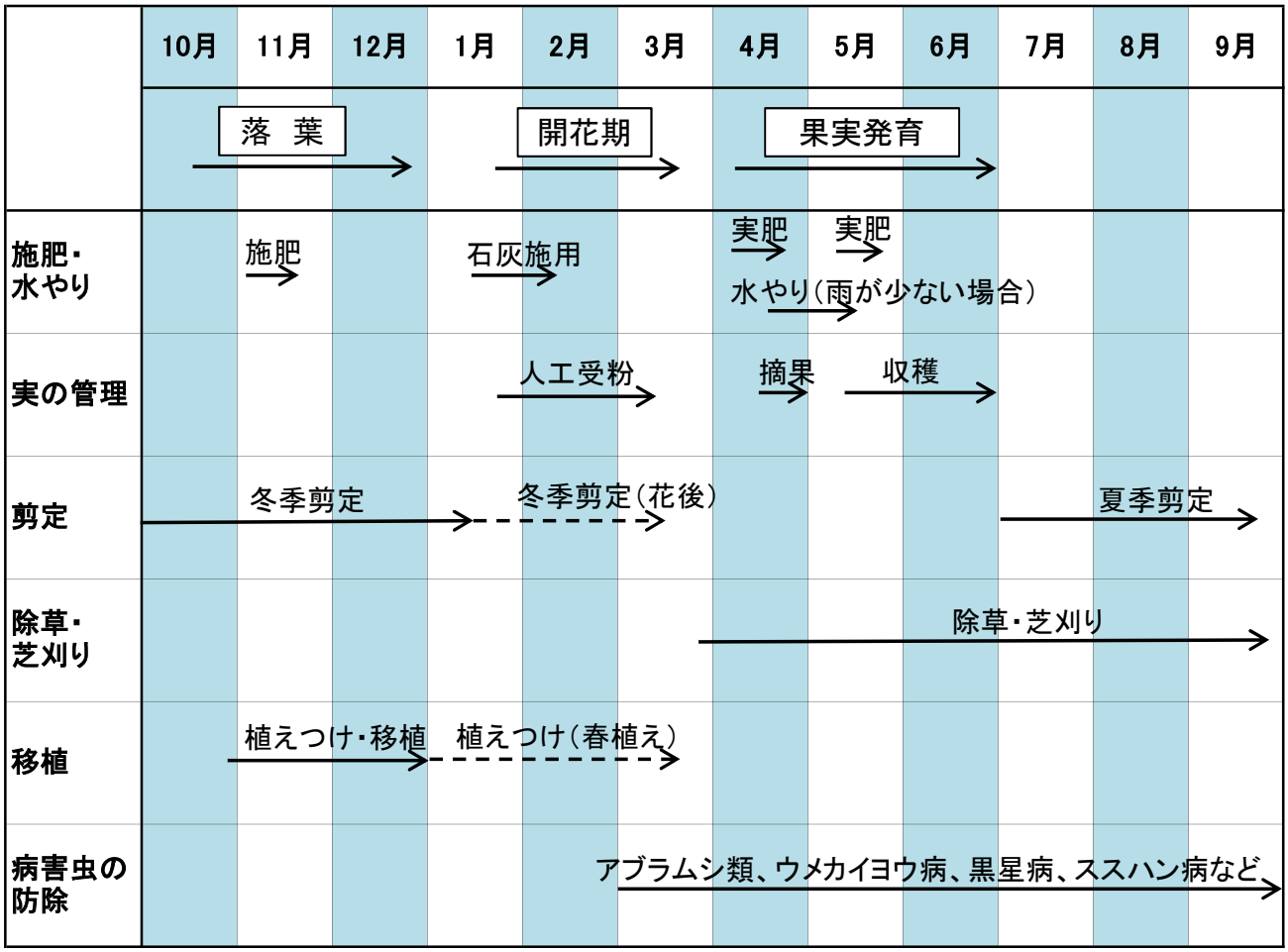
①大坪孝之（2015）『育てて楽しむウメ　栽培・利用加工』　株式会社創森社

②JAセレサ川崎　栽培マニュアル

資料２

梅の維持管理について

（実の収穫を目的とした場合の作業イメージ）



資料３

「御幸地区の歴史・文化」講演会について

１　平成28年度の講演内容

第1回「小向梅林と御幸地区の歴史①　～江戸時代から明治天皇行幸まで～」

第2回「小向梅林と御幸地区の歴史②　～明治天皇行幸から現在まで～」

・講師：長島　保　氏

２　講演会の開催概要（案）

時期　　第1回：11月頃、第2回：12月頃

時間　　土曜日の午後または平日の午後、3時間程度（質疑応答含む）

会場　　幸区役所会議室

人数　　150名前後

講演会日程候補

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

（参考）「御幸地区の歴史・文化」講演会　今後の予定

平成28年度	1.「小向梅林と御幸地区の歴史①　～江戸時代から明治天皇行幸まで～」
	（1）講師：長島　保氏 （2）内容：明治天皇の行幸を中心に、江戸時代からの御幸地区の歴史（梅生産と江戸市中への出荷、川崎宿中興の功労者・田中丘隅の墓所「妙光寺」、多摩川の氾濫など）を概観する。
	2.「小向梅林と御幸地区の歴史②　～明治天皇行幸から現在まで～」
	（1）講師：長島　保氏 （2）内容：明治天皇の行幸以降の御幸地区の近代化の歴史（近代工場の進出と川崎の近代化を牽引など）を地域に根ざして概観する。
平成29年度	3.「地名からみた幸区」
	（1）講師：日本地名研究所所長　谷川彰英氏 （2）内容：全国的にみた「幸」地名と由来 明治天皇行幸に由来する全国的な地名 明治天皇の行幸と歴史的意義　など
平成30年度	4.「榎本家資料が語る明治時代の小向梅林」＋榎本家資料の見学
	（1）講師：市民ミュージアム学芸員 （2）内容：榎本家資料（奥山榎本で使われていた盃「行幸廼梅」・扁額・お品書き・お品書きの版木、梅林取調書など）から明治時代の小向梅林の様子をさぐる。
平成31年度	5.「川崎市の近代化と幸区　～小向梅林衰退後の御幸地区～」
	（1）講師：日本女子大学教授　吉良芳恵氏　or　横浜開港資料館副館長　西川武臣氏 （2）内容：御幸煉瓦製造所、横浜精糖（明治製糖）、明治製菓川崎工場、東京電気（東芝）などの近代工場進出と川崎市の近代化・工業化を牽引した幸区・御幸地区の近・現代史を日本の近・現代史・産業史の視点からみる。

資料４

御幸公園梅香事業に関する寄附について（案）

１　受付開始時期
　平成２９年４月

２　寄附目標金額
　５００，０００円
　｛@５０，０００円×１０本分（平成２９年度植樹予定２０本の半数)｝

３　寄附受付方法（制度の比較）

	ふるさと応援寄附金	（仮）梅香事業寄附金
①　要綱の制定	不要	新規制定
②　寄附の種類	現金のみ	現金または物品
③　寄附額	任意	
④　税控除	寄附金のうち、２千円を超える部分について税控除が受けられる（上限額あり）	
⑤　寄附者の税控除手続	（１）確定申告 （２）ワンストップ特例制度（確定申告不要） （寄附者が「寄附金税額控除に係る申告特例申請書」を寄附受付窓口に提出） ※ワンストップ特例の申請条件 ア　確定申告を行う必要のない給与所得者等であること イ　１年間の寄附先が５自治体以下であること	
⑥　メリット	既存の制度の活用が可能	現物による寄附受納が可能であるため、幅広い寄附者（団体）から寄附を見込める
⑦　デメリット（留意事項）	記念品の内容に制限あり 現物による寄附受納不可	現物による寄附の場合、品種、植樹時期、枯れた場合の補償等について、寄附者（寄附者が依頼した業者）との調整が必要

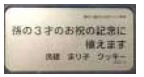
４　寄附者への謝意
　記念プレートの設置による。
　案については別紙に記載。

＜添付資料＞
　別紙　　寄附者への謝意（記念プレート設置）（案）

別紙

寄附者への謝意（記念プレート設置）（案）

1. 設置方法、基準額について

設置方法	寄附額に応じた区分	1回の寄附額	他都市事例	設置イメージ	費用（概算） ※設置費用は除く
（案1） 銘板に設置 メリット　：破損、盗難の可能性が低い 管理が容易 デメリット：他案に比べ初期費用がかかる 寄附者が見込みより多い場合に即時対応が困難（2基目の設置が必要）	**（案1-1）** 区分しない （同一の大きさで1枚に1名分の記載）	＿＿＿＿円以上	＜東京都台東区「あじさいロード」＞ 2千円以上の寄附でメッセージを記載		銘板（70人分記載）　440,000円 プレート（10cm×4cm）　4,300円／枚 プレート（5cm×2cm）　2,700円／枚 ＜1人あたり費用＞寄附者70人の場合 プレート（大）　10,600円 プレート（小）　9,000円
	（案1-2） プレートの大きさで区分 （1枚に1名分の記載）	＿＿＿＿円以上で大プレート ＿＿＿＿円以上で小プレート			
	（案1-3） プレート1枚の記載人数で区分 （大きさは同一）	＿＿＿＿円以上で1枚に1名分記載 ＿＿＿＿円以上で1枚に　名分記載			
（案2） 梅の木の脇に設置 メリット　：寄附者が設置場所を選べる 寄附者増への対応が容易 デメリット：破損、盗難の恐れがある 梅の木が枯れた場合の対応が必要	**（案2-1）** 区分しない （同一の大きさで1枚に1名分の記載）	＿＿＿＿円以上	＜埼玉県さいたま市「彩の国みどりの基金」＞ 5万円以上の寄附で氏名、メッセージの記載		32,500円／基　（標柱型） 13,000円／基　（ポール型）
	（案2-2） プレートの大きさで区分 （1枚に1名分の記載）	＿＿＿＿円以上で大プレート ＿＿＿＿円以上で小プレート			
	（案2-3） プレート1枚の記載人数で区分 （大きさは同一）	＿＿＿＿円以上で1枚に1名分記載 ＿＿＿＿円以上で1枚に　名分記載			
（案3） 梅の木に設置 メリット　：設置費用が安価 1本の木に対して複数設置できる 寄附者が設置場所を選べる 寄附者増への対応が容易 デメリット：破損、盗難の恐れがある 梅の木が枯れた場合の対応が必要	**（案3-1）** 区分しない （同一の大きさで1枚に1名分の記載）	＿＿＿＿円以上	＜埼玉県さいたま市「彩の国みどりの基金」＞ 1万円以上の寄附で氏名の記載 ＜神奈川県「かながわ街路樹パートナー」＞ 1万円以上の寄附で氏名、メッセージの記載		1名用（10cm×4cm）　1,300円／枚 2～4名用（17cm×12cm）　8,000円／枚 8名用（22cm×16cm）　10,000円／枚
	（案3-2） プレートの大きさで区分 （1枚に1名分の記載）	＿＿＿＿円以上で大プレート ＿＿＿＿円以上で小プレート			
	（案3-3） プレート1枚の記載人数で区分 （大きさは同一）	＿＿＿＿円以上で1枚に1名分記載 ＿＿＿＿円以上で1枚に　名分記載	＜京都府京都市「京都市記念植樹奨励事業」＞ 1万円以上の寄附で1枚に5名分の氏名記載 5万円以上の寄附で1枚に1名分の氏名記載		

※参考

川崎市ふるさと応援寄附金の記念品贈呈基準	100，000円
幸区役所表彰状等贈呈要綱の感謝状贈呈基準	100，000円

2. 記載内容について

氏名（ニックネーム）、メッセージ、樹木名　など

資料５

御幸公園梅香事業推進計画について（案）
～梅香事業推進に向けたイメージ～

【現状と課題】

明治時代の天皇が行幸するほど観梅名所であった梅林は、都市化の進展から往年の面影を見ることができず、御幸公園に行幸の碑とともに当時の名残りの梅があります。天皇の行幸から「御幸」の名称ができ、「幸区」の名称につながった梅林であることから、市民の地域への愛着を育むとともに、近隣の皆さんの集いの場を創造し地域コミュニティの活性化を図るため、幸区の魅力であり資源の一つである御幸公園の梅林を市民の皆様とともに復活させていく必要があります。

【区民との協働】

地域の課題を自ら発見し解決する区民協働の取り組みとして、また区民の地域への愛着と誇りを持ち郷土の歴史や文化を継承していくためにも、「御幸公園梅香事業」では、各プロセスにおいて区民との協働で事業を推進していきます。

各段階で想定される協働のイメージ

プロセス	協働のイメージ
計画づくり	地元町内会や老人クラブ、子ども会代表、企業、観光協会等からなる「御幸公園梅香事業推進会議」で協議・検討
整備	寄付による植樹
運営	各種イベント等について、「御幸公園梅香事業推進会議」を中心とした区民参加による実行委員会によって運営
維持管理	地域の皆さんと管理運営協議会を設立
計画の進行管理	「御幸公園梅香事業推進会議」で進行管理

【施策体系】

①魅力の発信
- 内容：広く市民に御幸の梅林があることを知ってもらう
- 手法：市政だよりや梅香事業の地域への配布や掲示など様々な機会を通じて広報していく
- 詳細：
  - 区の HP で PR
  - アーカイブ写真の募集
  - 梅香事業としての広報
  - 関東近郊梅林写真展の開催

②歴史を学ぶ
- 内容：地域への愛着や誇りを育むため、地名の由来や地域の歴史を学ぶ
- 手法：地名の由来や歴史について、学ぶ機会の創設する
- 詳細：【講演会テーマ】
  - 小向梅林と御幸地区の歴史
  - 榎本家資料が語る明治時代の小向梅林
  - 地名から見た幸区
  - 川崎市の近代化と幸区

③梅林の復活
- 内容：観梅名所として栄えた時代の面影を復活する
- 手法：梅林及び散策路、広場を整備し、市民への集いの場所を創造する

④梅の活用
- 内容：御幸公園やその梅林、梅の果実を活用した取り組みを市民と協働で推進する
- 手法：
  - ● 場所、景色を活かす
  - ● 果実を活かす
  - ● 花を活かす
- 詳細：
  - ○ 梅まつり、野点、句会等の開催、絵画コンクール
  - ○ 梅の実加工のお菓子、ジャム、梅干し等
  - ○ 観梅の PR

⑤梅林の保全
- 内容：市民とともに維持管理手法を研究し、協働で梅林を育んでいく
- 手法：管理運営協議会等の設立
- 詳細：【区民】下草刈り、簡易剪定、掃除
  【行政】施肥、害虫防除等

⑥思い出の伝承
- 内容：御幸梅林を後世に伝えていくため、子どもの記憶に残る取り組みを進める
  ②の「歴史を学ぶ」と相互に関連
- 手法：小学校、中学校等と連携した取り組みの推進
- 詳細：写生、スケッチの場としての活用、総合的な学習の郷土史学習、国語の俳句、短歌づくりの場としての活用など

参考資料1

御幸公園梅香事業実施要綱

（目的）

第１条　幸区の魅力ある地域資源の一つであり、明治天皇が観梅に行幸された御幸公園において、豊かな緑、文化、芸術、歴史等の特徴を活かしながら、区民の地域への愛着と誇りを育んでいくため、様々な主体との連携及び協働を通して、賑わい及び彩り豊かな「御幸公園梅香（うめかおる）事業」（以下「梅香事業」という。）を実施する。

（実施場所）

第２条　梅香事業の実施場所は、次のとおりとする。

幸区東古市場１　御幸公園内

（梅香事業の内容）

第３条　梅香事業の内容は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) 地域との協働事業に関すること。

(2) 学校との連携事業に関すること。

(3) 梅林の保全に関すること。

(4) 梅林の活用に関すること。

(5) 御幸地区の歴史・文化に関すること。

(6) イベント等の企画及び実施に関すること。

(7) 梅の植樹に係る寄付に関すること。

(8) その他必要な事項に関すること。

（御幸公園梅香事業推進会議）

第４条　梅香事業を実施するに当たり、御幸公園梅香事業推進会議を設置する。

（その他）

第５条　この要綱の定めのない事項については、区長が定める。

附　則

この要綱は、平成２７年８月２５日から施行する。

参考資料2

御幸公園梅香事業推進会議設置要綱

（目的及び設置）

第１条　御幸公園梅香事業実施要綱第４条に基づき、御幸公園梅香事業（以下「梅香事業」という。）を地域住民とともに協働して推進するため、御幸公園梅香事業推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２条　推進会議は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

(1)　地域との協働事業の検討

(2)　学校との連携事業の検討

(3)　梅林の保全に関する意見集約

(4)　梅林の活用に関する検討

(5)　御幸地区の歴史・文化に関する調査・研究

(6)　イベント等の企画の検討

(7)　梅の植樹に係る寄付手法の意見集約

(8)　梅香事業に関する調査・研究

(9)　事業報告書案の集約

(10) その他必要な事項

（構成）

第３条　推進会議は、別表に掲げる者をもって構成する。

２　委員長は、区長をもって充てる。

３　副委員長は、道路公園センター所長をもって充てる。

４　委員長は、会務を総理する。

５　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

６　第１項に掲げる構成員のほか委員長が必要と認める場合は、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（推進会議）

第４条　委員長は、必要に応じて推進会議を招集し、その議長となる。

２　委員は、推進会議に出席できないときは、その指名する者を代理で推進会議に出席させることができる。

（事務局）

第５条　推進会議の事務局は、幸区役所道路公園センターに置く。

（その他）

第６条　この要綱に定めのない事項については、委員長が定める。

附　則

この要綱は、平成２７年８月２５日から施行する。

別表（第３条関係）

	所属団体等
1	町内会・自治会
2	幸区老人クラブ連合会
3	幸区こども会連合会
4	幸観光協会
5	幸区スポーツ活動連合振興会
6	企業
7	市立小学校
8	教育委員会
9	区長
10	道路公園センター所長

参考資料3

「御幸公園梅香事業」推進会議　名簿

委員

	所属団体等	氏名	役職
1	幸区町内会連合会	鏑木　茂哉	会長
2	古市場町内会	金井　弘年	町内会長
3	小向仲野町新生会	佐野　昇	町内会長
4	幸区老人クラブ連合会	佐藤　例藏	会長
5	幸区子ども会連合会	神谷　厚子	副会長
6	幸観光協会	深瀬　幹男	会長
7	幸区スポーツ活動連合振興会	君和田　孝	会長
8	株式会社東芝　小向事業所	永田　健二	総務部総務担当グループ長
9	市立小学校	高木　充	西御幸小学校校長
10	教育委員会文化財課	服部　隆博	課長
11	幸区役所	上野　葉子	区長
12		吉濵　匡孝	道路公園センター所長

事務局

	所属	氏名	役職
1	幸区役所道路公園センター	箕輪　秀生	整備課協働推進担当課長
2		笠原　康顕	管理課庶務係長
3		藤間　昭博	管理課庶務係主任
4		長谷川　祐馬	管理課職員
5		田中　昭子	整備課公園整備係長
6		安達　大輝	整備課職員
7		山下　麻美	整備課職員

参考資料4

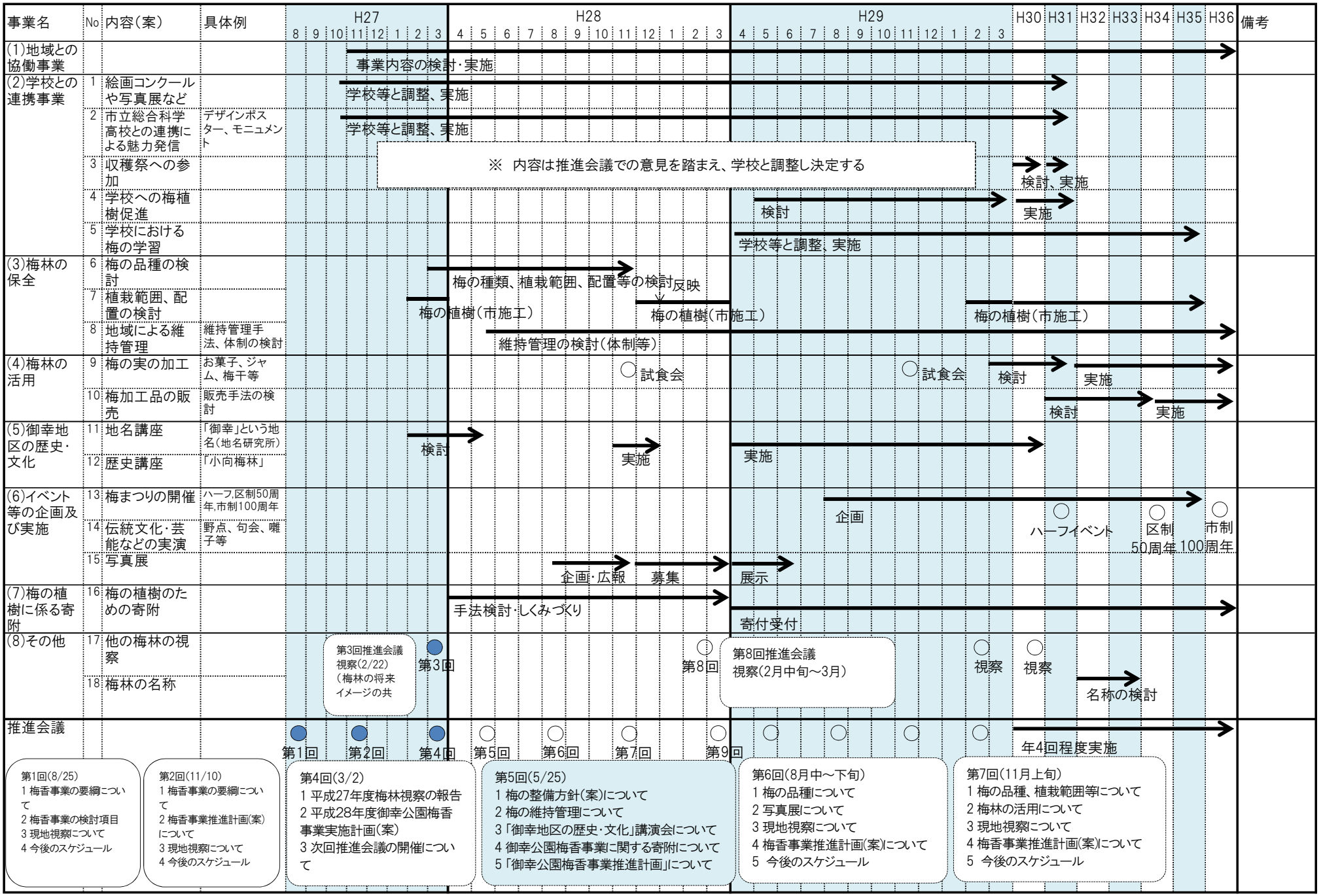
平成28年度御幸公園梅香事業実施計画（案）

事業名	No	内容（案）	具体例	平成28年度 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
(1)地域との協働事業				事業内容の検討						実施						
(2)学校との連携事業	1	絵画コンクールや写真展など		学校等と調整、実施												景品代相当（銘入りボールペン等）
	2	市立総合科学高校との連携による魅力発信	デザインポスター、モニュメント	学校等と調整、実施												
	3	収穫祭への参加		ハーフイベントを目指して平成30年度に検討												
	4	学校への梅植樹促進		平成30年度からの植樹に向けて検討												
	5	学校における梅の学習		学校のカリキュラムにあわせて、検討												
(3)梅林の保全	6	梅の品種の検討							○梅の品種の検討（第6回会議）		○梅の品種の決定		工事（市施工）			梅の植樹（8本程度）
	7	植栽範囲、配置の検討				○植栽範囲、配置等の検討（第5回会議）					○植栽範囲、配置等の決定					既存梅への施肥等
	8	地域による維持管理	維持管理手法、体制の検討			○維持管理内容の洗い出し（第5回会議）					○具体的な管理手法等の検討					
(4)梅林の活用	9	梅の実の加工	お菓子、ジャム、梅干等								○試食会（第7回会議）	※全国の名産を集める				
	10	梅加工品の販売	販売手法の検討	※ アイデアがあればその都度、会議内で議論する（地域の協力店等への打診等）												
(5)御幸地区の歴史・文化	11	地名講座	「御幸」という地名（地名研究所）	詳細検討（文化財課、事務局）		○平成28年度実施内容の決定（第5回会議）					◎第1回	◎第2回				謝礼、会場代等
	12	歴史講座	「小向梅林」			※ 講演会の内容案は「資料3」を参照										
(6)イベント等の企画及び実施	13	梅まつりの開催	ハーフ、区制50周年、市制100周年	ハーフイベントにあわせて、平成29年度から検討												
	14	伝統文化・芸能などの実演	野点、句会、囃子等	ハーフイベントにあわせて、平成29年度から検討												
	15	写真展							○企画（第6回会議）		広報等	写真募集期間（12月～3月）※展示は				
(7)梅の植樹に係る寄附	16	梅の植樹のための寄附			○手法の提案（第5回会議）											
(8)その他	17	他の梅林の視察						○視察場所の検討			○視察場所の決定				○平成28年度梅林視察の実施	
	18	梅林の名称		平成30年度以降に検討												
御幸公園梅香事業推進計画	－	推進計画の策定			資料の収集、関係機関との調整				○委員への素案の提示（第6回会議）		○案の決定（第7回会議）		○計画の策定			運営支援、郵便料等
推進会議	－	年4回程度			○第5回会議 5月25日				○第6回会議 8月中～下旬		○第7回会議 11月上旬				○第9回会議	
合計																

参考資料5

計画期間の主な取組(案)H27～H36

事業名	No	内容(案)	具体例	備考
(1)地域との協働事業				
(2)学校との連携事業	1	絵画コンクールや写真展など		
	2	市立総合科学高校との連携による魅力発信	デザインボスター、モニュメント	
	3	収穫祭への参加		
	4	学校への梅植樹促進		
	5	学校における梅の学習		
(3)梅林の保全	6	梅の品種の検討		
	7	植栽範囲、配置の検討		
	8	地域による維持管理	維持管理手法、体制の検討	
(4)梅林の活用	9	梅の実の加工	お菓子、ジャム、梅干等	
	10	梅加工品の販売	販売手法の検討	
(5)御幸地区の歴史・文化	11	地名講座	「御幸」という地名(地名研究所)	
	12	歴史講座	「小向梅林」	
(6)イベント等の企画及び実施	13	梅まつりの開催	ハーフ,区制50周年,市制100周年	
	14	伝統文化・芸能などの実演	野点、句会、囃子等	
	15	写真展		
(7)梅の植樹に係る寄附	16	梅の植樹のための寄附		
(8)その他	17	他の梅林の視察		
	18	梅林の名称		
推進会議				



参考資料6

会　議　摘　録

会議名称	御幸公園梅香（うめかおる）事業第４回推進会議
日　時	平成２８年３月２日（水）　１５：３０～１７：００
会　場	幸区役所４階第２会議室
出席者	【委員】 上野区長（委員長）、道路公園センター　吉濵所長（副委員長）、鏑木委員、 金井委員、佐野委員、佐藤委員、神谷委員、深瀬委員、君和田委員、永田委員、 水谷委員、 【事務局】 道路公園センター　管理課　山口課長補佐、長谷川職員 整備課　佐々木担当課長、飯田係長、山下職員
欠席者	服部委員
傍聴者	２人
配布資料	議事次第 資料１　第３回御幸公園梅香事業推進会議　平成２７年度梅林視察報告 資料２　平成２７年度梅林視察アンケートのまとめ 資料３　平成２８年度御幸公園梅香事業実施計画（案） 資料４　御幸公園梅香事業「区内市立学校に関する関連情報」※こども支援室提供 資料５　「御幸地区の歴史・文化」講演会（案）※文化財課提供 資料６　計画期間の主な取組（案）H27～H36 資料７　委員からいただいた意見のまとめ 資料８　御幸公園梅香事業推進計画（案）※目次のみ 参　考　御幸公園梅香事業第２回推進会議摘録 御幸公園梅香事業実施要綱 御幸公園梅香事業推進会議設置要綱 御幸公園梅香事業推進会議　名簿
議　題	(1) 平成２７年度梅林視察の報告 (2) 平成２８年度御幸公園梅香事業実施計画（案） (3) 次回推進会議の開催について
決定事項	◎平成２８年度の事業計画は、概ね、案のとおり了承された。 ◎「学校との連携事業」における絵画コンクールは、小学校を対象に希望者を募ることとする。 ◎「御幸地区の歴史・文化」講演会は、案のとおり了承された。 ◎第５回推進会議の日程は、「平成２８年５月２５日（水）１５：３０～」とする。

会議の内容 及び 主な発言	1　開会 ・事務局から、株式会社東芝　小向事業所の小林俊夫委員が人事異動となり、後任として永田健二委員に引き継がれることを説明した。 ○委員長挨拶 ・平成２８年度にどういうことを検討していくか、どういう事業を行っていくか意見をもらいたい。また、楽しみながら事業を進めていきたい。 2　議題 (1)平成２７年度梅林視察の報告 事務局から、資料１及び資料２により、「平成２７年度梅林視察の報告」を行った後、各委員から視察を踏まえた意見及び感想を述べた。 ・「資料２（１）①梅の本数」について ○御幸公園の植樹範囲はどの程度か。それがわからないと本数を決められない。 →植栽間隔にもよるが、１５０本～２００本程度が良いのではないかと考えている。どのエリアに植樹するかも含め、推進会議で検討を行っていく。 ○公園の規模については大倉山公園程度が適当であり、参考にしたい。 ○大倉山公園の梅林は本数の割に密集した感じはしなかったので、同程度が良い。 ・「資料２（１）②梅の種類」について ○実梅・花梅を両方植えたい。 →今後、委員に意見をもらって決定していく。 ○もともとの小向一帯は畑の中の梅林だったというが、今後どのような梅林にしていくかによって種類等が変わっていくと思うので、検討したほうが良い。 ○遅く咲く種類や紅梅があると華やかになると思う。 ○梅の実はたくさんできる方が良い。 ○実を取るためか、花を見るためかなど、考えていく必要がある。 ○御幸公園の芝生を、どのように管理していくかということも課題ではないか。 ○大倉山公園は梅以外の楽しみがあったので、御幸公園でも公園全体を考えて梅を植樹していくと良い。 ○やるからには中途半端でない、しっかりとした梅林にしていきたい。

○梅は桜に匹敵するような樹であるため、公園内で梅を主体的に魅せられるよう工夫していけると良い。御幸公園はあまり大きくないので、設備面ではなくソフト面を充実させていくと良い。

○幕山公園と曽我梅林に行ってきた。幕山公園は、斜面地に梅が咲いていて里山の雰囲気があり、夜はライトアップされていた。曽我梅林は、３～４万本の梅があり、梅畑といった印象だった。いろいろな形の梅林があると感じた。

○熱海の梅林に行ってきた。トイレは清潔、かつ、一定程度の数があると良いと思った。今度、大倉山公園にも行ってみたい。

(2) 平成２８年度御幸公園梅香事業実施計画（案）

事務局から、資料３、資料４及び資料５について、説明を行った。

○事業の実施は段取りを決めて行っていく必要があるのではないか。

→計画期間は、市制１００周年となる平成３６年度までとして検討する。

○資料３のそれぞれの事業項目について、ねらいや目的、対象者が示されていると検討がしやすいのではないか。

○小学校での絵画コンクールは、カリキュラムに入れる場合、年度当初には依頼してほしい。希望制であれば、１～２か月前の依頼でも可能である。

○用紙の大きさによっても期間は変わるが、はがき程度だと気軽に描けるのではないか。用紙が大きいと、ある程度期間を設ける必要がある。

○梅の絵はいつ描くのか。現物を見て描けない時期の場合は何を参考にするのか。

→平成２８年度の絵画コンクールは、近隣校のみか幸区内全域の小学校を対象とするかなどは未定だが、各小学校には区役所から依頼を行う。依頼内容、展示方法等については事務局で案を作成し、提示する。

○土壌改良を含めた梅１本あたりの費用が約５０万円というのは高く感じる。どの程度の範囲を土壌改良するか。また、１本ずつではなくて、広範囲をまとめて施工すればもう少し安くなるのではないか。

→土壌改良は１本あたり直径約３ｍ、深さ約１ｍ程度で考えている。年度ごとの予算内で施工できる範囲はまとめて行っていく予定であり、そのうちの１本あたりの単価が約５０万円ということである。

→多摩川のスーパー堤防の工事予算の関係で、御幸公園の土壌は非常によ

	くないため、大幅に土を入れ替える必要がある。市の予算だけではなく、河川財団の助成金も活用していく。 ○植樹に関する寄付で、梅自体を移植する場合はいくらぐらいかかるのか。 →移植にかかる費用は木の大きさにより異なる。梅の老木は移植しても活着が難しいことから、寄付は現金を考えている。 ○資料５について、平成２８年度には１１月～１２月にかけて２回の講演会を行っていく予定である。推進計画の策定に向けて受講者にも意見を聞くことができる時期に設定している。 →平成２８年度に行う「御幸地区の歴史・文化」の講演会の内容、時期については、資料５のとおり実施することで委員に了承された。 事務局から、資料６、資料７及び資料８について説明を行った。 ○「御幸公園梅香事業推進計画」を、平成２８年度の３回の会議を経た上で策定したい。平成２９年度の予算要求の際には、素案を提示したいと考えている。 ○総合科学高校にポスターの作成を依頼する際に、区民祭のときのようなアニメ風のタッチだと個性が感じられないと思うので、要望をうまく伝えたい。 ○ある程度のねらい、目的を、総合科学高校に依頼する際に決めておけば、生徒たちに伝わるのではないか。 ○川崎信用金庫の絵画コンクールや作文コンクールのように、ポスターの採用者に景品を贈呈すると良いのではないか。 →平成２８年度御幸公園梅香事業実施計画（案）については、委員より異論はなかったため、概ね決定とし、詳細については後日検討をする。 (3)次回推進会議の開催について ○第５回推進会議は「平成２８年５月２５日（水）１５：３０～１７：００」に行う。 ３　その他 ・吉濵副委員長より、平成２８年２月２７日（土）に実施された大倉山公園観梅会の様子の説明を行った。また、御幸公園の梅を使用した自家製梅酒や、大倉山公園の梅を使用し販売されている梅酒の紹介を行った。 以上